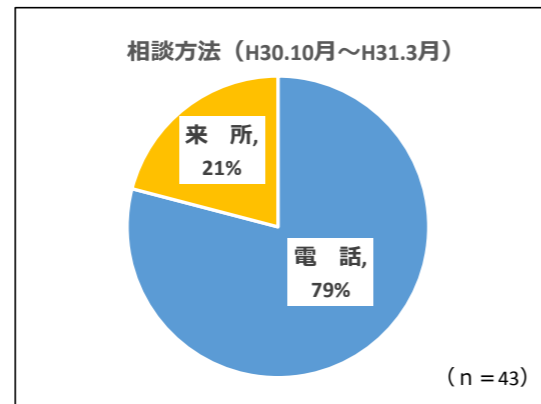


＜相談方法＞

	電話	来所	合計
10月	4	1	5
11月	2	1	3
12月	6	3	9
1月	6	2	8
2月	9	0	9
3月	7	2	9
合計	34	9	43
	79%	21%	

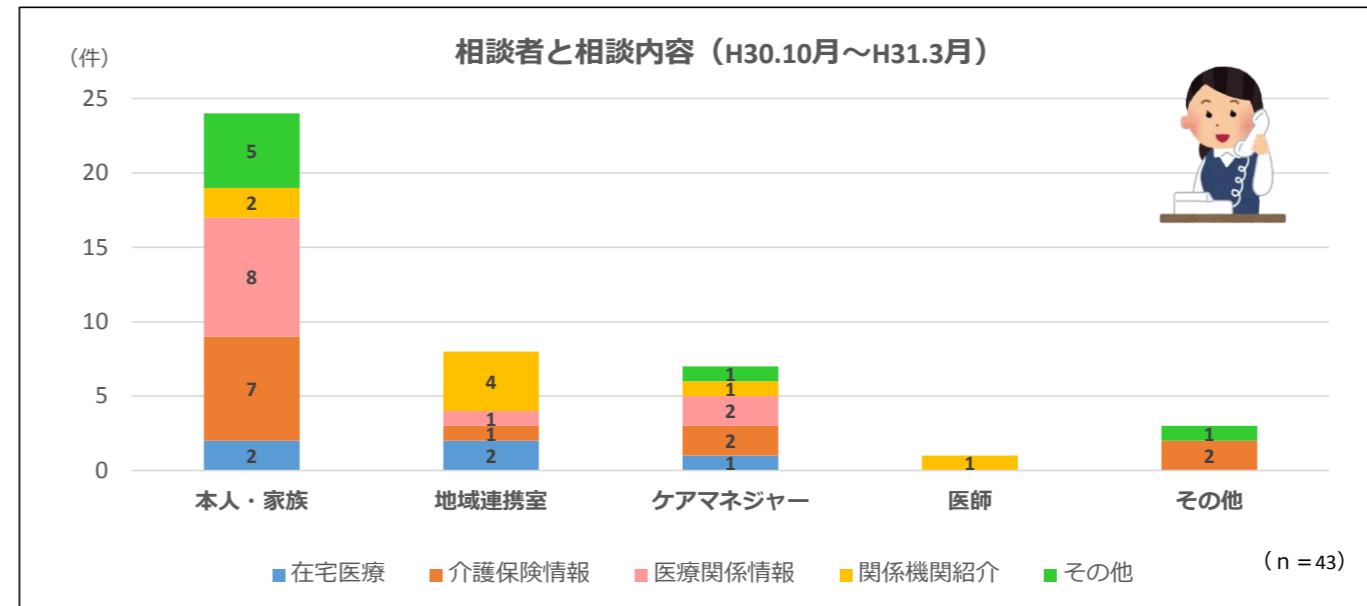


＜相談者＞

	本人・家族	地域連携室	ケアマネジャー	医師	その他	合計
10月	4	0	1	0	0	5
11月	0	1	2	0	0	3
12月	3	4	1	0	1	9
1月	8	0	0	0	0	8
2月	6	1	1	1	0	9
3月	4	2	2	0	1	9
合計	25	8	7	1	2	43
	58%	19%	16%	2%	5%	

＜相談内容＞

	介護保険情報	医療機関情報	関係機関紹介	在宅医療	その他	合計
10月	3	1	0	0	1	5
11月	1	1	0	1	0	3
12月	2	2	2	0	3	9
1月	3	2	1	2	0	8
2月	1	5	1	2	0	9
3月	2	0	4	0	3	9
合計	12	11	8	5	7	43
	28%	26%	19%	11%	16%	



◆ 相談内容の詳細

① 相談者：本人・家族（計25件：58%）

- ・介護保険施設（老健・療養病床）の入所 8件
- ・医療介護の在宅サービス 5件
- ・在宅生活について 4件
- ・訪問診療の費用 2件
- ・認知症の診療ができる医療機関 2件
- ・ケアマネジャーの変更希望 1件
- ・介護保険の区分変更 1件
- ・有料老人ホームの接遇 1件
- ・ボランティアができる機関の問い合わせ 1件

② 相談者：地域連携室（計8件：19%）

- ・訪問診療が可能な医療機関の問い合わせ 2件
- ・療養病床への転院 2件
- ・レスパイト入院 1件
- ・看取りのできる医療機関の問い合わせ 1件
- ・介護保険施設の入所 1件
- ・介護保険非対象者の入所可能施設の問い合わせ 1件

③ 相談者：ケアマネジャー（計7件：16%）

- ・認知症訪問診療可の医療機関の問い合わせ 1件
- ・生活保護対応医療機関の問い合わせ 1件
- ・精神科診療の医療機関の問い合わせ 1件
- ・認知症診療の医療機関の問い合わせ 1件
- ・喀痰吸引の対応ができる訪問介護事業所の問い合わせ 1件
- ・老健または療養病床の入所 1件

④ 相談者：医師（計1件：2%）

- ・訪問診療報酬関連（医師） 1件

⑤ 相談者：その他（親族、住民）（計2件：5%）

- ・療養病床の転院相談 1件
- ・近隣住民の情報 1件



【平成30年度下半期（H30.10月～H31.3月）のまとめ】

- 相談件数は全部で43件（平均月7件）。
  - 相談方法としては、電話による相談が79%と多かった。
  - 相談者は、本人・家族が58%と最も多く、次が医療機関の地域連携室（19%）であった。
  - 相談内容は、介護保険情報が28%と最も多く、次が医療機関情報（26%）であった。
  - 相談内容の詳細については、本人・家族からは、病院退院後の介護保険施設の入所に関する相談（32%）が最も多かった。医療機関からは、病院退院後の在宅医療、介護保険施設や他の医療機関への転院に関する相談があった。
- また、在宅療養に向けて家族の支援が得られず、経済的な理由もあることから療養病床を希望される困難ケースが数件あった。



【現状分析】

- ◆ 本人及び家族からの病院退院後の生活に関する相談が多いことから、入院中から病院関係者を中心として地域の関係機関の多職種を交えた情報交換を更に強化することが重要である。併せて、退院後も継続した相談ができるような環境作りも求められている。
- ◆ 介護保険については、制度等の問い合わせが多く、今後、在宅・施設サービス等を利用する人の増加が予想されることから、ケアマネジャーの役割が更に重要になると考える。
- ◆ 複合的な問題を抱える困難なケースも多くなっていることから、ケアマネジャーは、医療機関を始め、地域包括支援センターや地域の介護関係機関との丁寧な連絡調整が求められる。